

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271100442		
法人名	株式会社アミーゴ島根		
事業所名	グループホーム ゆりさわ(南ユニット)		
所在地	松江市宍道町佐々布2130番地1		
自己評価作成日	平成27年8月28日	評価結果市町村受理日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.jp">https://www.kaigokensaku.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成27年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑や山に囲まれ、敷地内には果樹を植樹し、中庭にも植木があり、身近に自然が感じられるように季節感を大事にしている。平成15年4月に開所し13年目になるが、木のぬくもりを感じられる家庭的な雰囲気を維持している。  
 ゆりさわという名前にちなんで、「ゆったりと穏やかに」「利用者さんのペースに合わせて」「さりげない気配り」「和気あいあいとした明るい雰囲気」をモットーに日々取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた静かな中で、木のぬくもりが感じられる建物になっている。雰囲気の違う2つの中庭をそれぞれ廊下で囲んでおり、デイルームからは中庭を居室からは外の景色を見ることができ、いつでも季節を感じることができる。事業がスタートしてから年数も経過しており、地域の方々との関係も良好なようである。笹巻づくりを一緒にしたり、夜間想定避難訓練への参加協力もあつたりと、少しずつ築いてきた地域との関係作りが実を結んできている。管理者は2人共今年度からの担当だが、町全体で医療福祉の繋がりを強化する取り組みに積極的に参加したり、他の事業所との交流を深めたりと前向きに取り組んでいる。かかりつけ医との関係も良好で、以前から多くの看取りを経験している。今後に於いても幅広い研修を重ねて、職員個々のレベルアップに繋げることで、地域での活躍の場を増やしていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関やホール等の共有スペースに掲示しており、日々確認、意識しながら仕事に取り組んでいる。	当初からのものを簡潔にわかりやすくと前管理者が職員と話し合って作成しており、基本をまとめた理念として覚えやすくなっている。会議の中でも取り上げ職員全員で共有するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々との付き合いは続いており、利用者の方と顔なじみの方もおられる。夏祭りや笹巻きなどの行事にも参加していただき、交流を続けている。	掃除や草刈りなどの地域の奉仕活動や、夏祭り等の行事にもできるだけ参加している。この地域の伝統行事の笹巻きは地域の方と一緒に深い関係性を深めている。中学生の職場体験やハーモニカや3B体操などボランティアの受け入れも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事などに参加をして頂き、利用者の方々との交流を通して、認知症の人の理解や支援方法などをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、ホームの状況報告や意見交換を行い、サービスに活かすよう取り組んでいる。	家族代表、地域関係者、市、包括等からの参加で定期的に開催。利用者状況や行事、職員研修等の取り組みの様子などを伝え意見を得ている。	議題等を検討することでより多くの参加が得られるよう検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂き、現状の報告や相談をしている。また必要時に気軽に相談できる関係はできている。	市や包括から毎回運営推進会議への参加があり、利用者の状況や空き具合など伝え協力を得ている。町の医療、福祉の関係者の集まりにも参加し、勉強会や懇親会でも関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から拘束しないケアに取り組んでいる。防犯のため、夜間のみ玄関は施錠している(夜8時から朝7時まで)。定期的に勉強会等を行い、拘束をしないケアを継続していく。	外に出る方がいるがホールの見えやすい場に職員が常に居るようにして、制限せず一緒に歩く等の対応をとっている。具体的な例を上げて拘束しないケアに繋がるように内部研修を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	会議で、言葉づかい等に気をつけるよう話している。また、職員同士で注意ができるような関係作りもできている。日々確認しながら、定期的に勉強会等も行い防止に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加や文献学習を行い、職員も学ぶ機会を持てるよう計画している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・同意書等の必要な書類を用いて説明している。また、何かあればその都度話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関には意見箱を設置し対応している。また、ご家族が来所された時には気軽に話ができる関係作りを心がけている。	今年7月に家族会を開催し約半数の家族関係者の参加があった。一緒に食事会を行い職員は出し物をし、年に1回の交流の場としている。月1回の便りと様子を伝えるベストショット写真に文章を付けて送り、意見を得る機会を増やしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開いたり、個人面談を行い、思いや意見等を聞く機会を設けている。また必要時にも場を設け、意見等を聞くようにしている。	年1回春に個人面談を実施し、目標を聞く機会としている。管理者は1対1で仕事だけでなく、職員間の事や上司への意見など幅広く話を聞くようにしており、働きやすい職場になるよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間は、各自の事情にあわせて配慮している。また向上心を持って働けるよう環境整備や、資格等の取得のために研修等の調整も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談の中でそれぞれの目標を聞き、研修の機会を作ったり、資格取得のためのアドバイス等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	しんじワーキング倶楽部やグループホーム部会等の参加を通して情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接や、入居後には時間を作り、ご本人の気持ちを聞きながら安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや負担感などは、ご本人とは別の場所で伺うようにしている。また、困っていることや不安なこと等をいつでも話してもらえよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談に来られた時に、詳しくお話を聞き対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは一緒にして頂きながら暮らせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には、ご本人とご家族がゆっくり話をして過ごす時間が作れるよう配慮している。また月1回のお便りで様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に来ていただき、ゆっくり楽しく過ごしてもらえるよう配慮している。また、電話のやりとりの支援や、外出時には馴染みの場所を通ってみる等している。	親戚の人や友人の面会や電話を取り次いだり、手紙のやり取りなどできるだけ関係が続くよう支援している。受診の際には馴染みの場所や家の近くを通って帰るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が見守ったり間に入ったりしながら、利用者同士の良い関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、ご家族からの相談があれば対応している。必要時には情報提供もを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご希望を聞いたり気持ちを察しながら、できる限り本人の希望や思いに沿って支援している。またケア会議の中で話し合ったりもしている。	重度な方も多い為ケアの中でどうしてほしいのかを表情などから察するようにしている。ボランティアでの3B体操やハーモニカ演奏などは多くの方が楽しまれている。	重度な方も取り組めるようなプログラムなど個別対応の充実に繋がるような取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等今までの生活の情報を把握・整理し、職員間で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや状態を把握し、支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族、職員等と話し合いをし、意向に沿った介護計画を作成するようにしている。(毎月モニタリングやケア会議を実施)	月に1回モニタリングを実施。重度化や看取りなどの状況の変化がある場合はかかりつけ医も参加して担当者会議を行っている。その他でも日頃の意見を集約して会議を開催して、計画の変更に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録のアセスメント欄を利用したり、ケア会議で情報を共有し、実際のケアや介護計画の見直し・改善に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて通院介助や外出支援等を行ったり、希望時には家族の宿泊なども受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方にお世話になったり、地域の中学生のボランティア訪問を受け入れたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族等の希望を聞きながら来待診療所やこなんホスピタル、深田歯科等のかかりつけ医に受診や往診していただき、適切な医療を受けられるよう支援している。	近くの診療所からの往診を受けたり、精神科へは職員が付添い受診している。訪看の利用もあり、施設の看護師との連携で身体状況の安定に繋げている。夜間、緊急時、看取りの際の対応も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の変化に気付いた時に看護師に報告し指示をもらっている。また日頃から状態を報告・相談しながら適切な対応ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者やケアマネ、看護師が医療機関との情報交換や相談をし対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、医療連携強化加算の説明と一緒に書面で同意書を頂いている。また、体調の変化があった時にも早めに話し合いを行い、できる限り希望に沿った支援に取り組んでいる。	重度化や看取りの際にはかかりつけ医を交えて話をするようにしている。ここでの対応が可能なこととそうでないことなど説明し同意を得ながら進めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡表を作成し、周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。また、地域の方にも参加していただいている。	年2回定期的に実施しており、今年7月に開催した避難訓練は夜間想定とし、地域の代表者へも呼びかけ参加を得ている。その他にも通報装置や初期消火の訓練なども行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、思いを尊重し、言葉使いには気をつけて対応するよう心がけている。また、個人情報や記録等は事業所から持ち出さない。	言葉使いなど気になった時にはその都度話すようにしている。ケアの基本として理解しているとされる事項も、ユニット会議ではあえて取り上げるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や生活の中で、ご本人の思いをさりげなく聞いたり、表現してもらいやすいよう配慮しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて、できるだけ希望に沿った生活ができるよう支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を聞きながら移動美容室や訪問美容室を利用している。また好みの衣服を着たり選んだりできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や後片付け等、個々の状態にあわせ一緒に行ったりしている。また、好き嫌いや嚥下状態を把握し、個別に献立や形状を調整したりしている。	北南で副食を分けて作るようにしており合わせて一食になるような形。買物は食材の配達を利用したりして3食作っている。タンパク質が不足しないように献立にも気を配っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分な量が摂取できるよう支援している。ゼリーや補助食品も準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて声かけしたり、介助をしている。口腔ケアスポンジなども準備し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて声かけしたり、介助をするようにしている。また、昼と夜でパンツの種類やパットの大きさ等を工夫しながら対応している。	排泄が自立している方は数名で多くは紙パンツ利用でパットを併用しており、排泄パターンに合わせて声がけ介助している。パンツ等の料金が高くならないようにパットの大きさ、あて方など工夫するようにし、家族の了承に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	月・水・金はヤクルトを飲んでいただくようにしている。また、個々の排便状況をチェックしながら牛乳やヨーグルトを準備してすすめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミングに合わせて入浴ができるよう支援している。	毎日でも対応可能となっているが、多くの方は1日おきのパターン。声がけて意向を確認するようにしている。湯の温度や入る順番に配慮し、1対1の対応でゆっくりつろげるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて休息や気分よく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルで確認できるようにしている。また、服薬の変更時には特に気をつけ状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことが生かせるよう支援したり、楽しく過ごしていただけるようレクリエーションを工夫したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら散歩やドライブに出かけたりしている。また希望時に買い物に出かけている。 以前に比べると外出機会が少なくなった方もいるため、状態に合わせてながら外出支援を続けていけるよう努めている。	その日の天気や体調面に考慮して車いすで近くに散歩に出たり、車を利用して買い物やドライブやお茶をしに出かけたりしている。1度に多くは出かけにくいので少人数ごととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望、状態に応じてお金の管理や使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話は取り次ぎ、お話しできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースのテレビの音量やエアコンの温度、明るさ等は気をつけて調整している。またお風呂場等はわかりやすいようにしている。 壁には季節に合わせた飾りをしている。	中庭を囲むように居室やダイニングがあり、庭の草木から季節を感じることができる。あまり広くはないが、台所、ダイニング、廊下等の動線が良く動きやすい。日当たりも良く明るい感じになっており、廊下の壁には利用者の作品が多く飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファでの休息、お話ししやすいよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきていただいたり、使いやすい物を準備していただき、ご本人が過ごしやすいよう配慮している。	フローリングの部屋が大半だが畳の部屋もあり、炬燵を出したり、畳にベッドを置いたり個々の希望に合わせて利用している。タンス、テレビ、鏡台など家で使っていた物を持ち込みくつろげるように配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安がないよう工夫している。わかりにくい方には見守りや付き添うようにしている。		